

ルポルタージュ 2007

reportage

ユニバーサルデザイン(UD)は、建築物や日用品の分野などで広く使われつつある。熊本市の旅行会社「旅のようこび」は、UDを取り入れた国内旅行を昨年11月以降、10回ほど実施し約150人が参加したという。UDの旅とはどんな内容なのか、旅行者はどんな思いで参加しているのか、佐賀県唐津市を訪れる日帰りのツアーに同行させてもらった。

イカ天ぶらに笑顔

バスは6月19日午前9時半、熊本交通センター(熊本市桜町)を出発した。客は高齢の夫婦や脳梗塞の後遺症による左半身麻痺の男性、右半身不随の女性、付き添いの家族ら14人。同社社長の宮川和夫さん(44)が添乗し、ボランティアの介助スタッフ6人も同乗した。

一行は車窓から唐津城の眺めを楽しみながら、午後1時前に、唐津市呼子町・呼子大橋のたもとにある旅館の海鮮レストランに到着した。ツアーの楽しみの一つは呼子町名物のイカ料理。テーブルには、新鮮なイカの刺し身、蒸し上がったばかりのイカシューマイ、揚げたてのゲソの天ぷらが並んだ。

熊本県菊池市西寺の調理師坂本豊子さん(53)は、全盲の弟孝一さん(50)の手に料理を取り分けた小皿と箸を持たせた。

孝一さんは熊本市内の施設に入所している。豊子さんは日曜日になるべく面会に行くようにしているが、公共交通機関を利用した人での遠出は難しいという。普段は食が細い孝一さんだが、旅と食べる楽しみを満喫

ユニバーサルデザイン 障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、だれもが利用しやすいように配慮する考え方。段差などの障害を取り除くバリアフリーをさし進めた。

ユニバーサルデザイン ツアー



旅行客と談笑する宮川さん(中央)

してほいと初めて参加した。天ぷらをほおぼり笑顔をみせる孝一さん。豊子さんは、「弟が生き生きしていて私も幸せ。バスの乗降やお歩くのに時間がかかっても、気にしないでいから楽しめる」と喜んだ。

「たまには一緒に」

昼食後は、同市の観光物産施設「マリセンターおさかな村」に移動した。最前列に座っていた熊本県山鹿市熊入町の森口尋子さん(72)は、ほかの人が全員降りてからゆっくり立ち上がった。右半身不随のため、右手で

気兼ね無用 旅満喫

高齢や障害 安全に配慮

つえをつき、左手は長女大坪美穂さん(43)の腕をつかんだ。ボランティアスタッフの手も借りながら乗降口の階段3段を注意深く降りた。「ありがとう、ありがとう。スタッフに笑顔でお礼を言った。

美穂さんは尋子さんと同居しているが、訪問介護事業所を運営しているため、「いつも仕事に忙しい、さみしい思いをさせている。だから、たまには一緒に旅行でもして楽しく過ごしたい」と初めて2人で参加した。尋子さんには旅行する楽しみを目標に、リハビリを頑張っても

らえたらと願っている。

50人スタッフ登録

帰路、バスは九州自動車道下り線の玉名サービスエリアにトイレ休憩のために立ち寄った。黄色のジャンパー姿のボランティアスタッフが、車イスと降り口に置く踏み台(高さ20センチ)を車体側面の荷物置き場から素早く取り出した。スタッフの介護福祉士古田優果さん(28)(熊本市龍田町弓削)は客に「大丈夫ですか」と声を掛け、トイレに誘導した。

この日はトイレ休憩7回、バス乗降18回、食事・観光介助3回。古田さんらボランティアスタッフ6人は、はぐれたり、けがをさせたりしないように目を配った。

スタッフは無給で食費も自己負担。それでも「旅を楽しみ、喜んでもらえるなら」と、福祉を学ぶ学生や介護福祉士、元看

ゆっくり楽しみ感動共有 ボランティアが介助支える

護師ら約50人が口コミや同社のホームページで募集を知り、登録メンバーとなっている。

旅行の安心安全を確保し、行き届いた介助を行うには、食事後の薬の服用や体調への目配り、入浴介助の技術など経験に裏打ちされた専門知識が必要とされる。このためボランティアスタッフの育成が最大の課題だ。

また、UD旅行は20人以下の参加者で余裕のある行程を組むため、一般的な団体ツアーに比べ、旅行代はいくぶん割高になる。今回は1人9800円。一般的な団体ツアーの場合は、1、2か所訪問先が多く6000円台だという。

「自分を褒めて」

午後7時前、バスは予定より2時間遅れで熊本市に戻った。旅が終わる前に、宮川さんがマイクを握った。「帰宅したら旅行ができた」と自分を褒めてあげて下さい。笑顔と拍手、そして「ありがとう」の言葉が車内に広がった。

宮川さんは別の旅行会社でUD部門を担当していたが、2001年の米同時テロなどの影響で旅行需要が落ち込み、会社は任意整理に。しかし、UD旅行で接した参加者の笑顔が忘れられず、「旅のようこび」をUD専門の旅行会社として興じた。現在、社員は2人。9月には初の海外旅行としてハワイツアーを実施する。

この日のツアーの途中、宮川さんは強調した。「UD旅行が目指しているのは障害者、高齢者だけでなく、すべての人が気兼ねなく参加しやすい旅。ゆっくりとした行程で人と人とのふれあいを大切にしたい」

(松枝研介)